

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101879		
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホーム宝寿の里		
所在地	宇都宮市宝木本町1769-1		
自己評価作成日	平成27年8月27日	評価結果市町村受理日	平成27年11月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念のもと職員一同がご利用者と共に生活をしており、年間行事計画など多く計画しております。利用者の高齢化も進み状況に応じた行事内容を取り入れ一年を通してご利用者には楽しんでいただいております。また、職員一人ひとりが自分の役割を理解し、ご利用者様が満足して頂けるよう日々取り組んでおります。また、専門性の習得にも自主的に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは田園地帯に位置し、雑木林に囲まれた閑静な場所にある。近隣には学校等の公共施設がある。同法人が運営する特別養護老人ホームとともに、家庭的な環境の下、利用者の能力に応じて自立した日常生活を営む事ができるよう、サービスの提供に努めている。毎年家族・利用者・職員等、少人数での1泊旅行を実施したり、収穫の季節にはホーム中庭で会食を楽しんだりしている。また、各ユニットにチューターを配置して情報の共有を図る他、法人での全体会議や研修、職員の資格取得にも積極的に取り組んでいる。利用者家族からターミナルケアの要望もあり、可能な限り看取りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、ホーム理念は、朝礼の申し送りの際唱和しており、共通認識にて一日のケアが始まります。	毎日の朝礼時に、5項目の理念を職員全体で唱和し、共有化を図っている。理念は事務室に掲示し、日々の基本ケア、目標達成に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会(仁宝会)に約1/2か月参加し、地域のボランティアの方に来所して頂いております。また、恒例行事である8月の地域交流盆踊りへ参加し交流を深めております。	自治会に入会し、ホームの行事の周知、地域への認知症の理解促進にも取り組んでいる。また、地域老人会(仁宝会)の活動に参加し、ボランティアの訪問等交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会に参加することにより、地域の方へ認知症の方の理解と協力を伝えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催しており、事業所の行事に合わせてご家族様への参加を働きかけを行っております。行事報告や今後の取り組みの内容を提案し話し合いをしております。	運営推進会議は2か月に1度開催し、利用者、包括、自治会長等が構成員となっている。駐在所員や消防署等にも協力を仰ぐ他、家族にも行事に合わせて参加を促がしている。会議ではホームからの支援状況の報告の他、参加者から率直な意見や要望等を受け、サービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度や運営等に対する相談はさせて頂いております。事故発生時は宇都宮市役所担当課に報告し助言、指導いただいております。	市担当者には状況報告や制度上の情報提供、支援に関するアドバイスをもらっている。連携を密にしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員一同周知徹底し、その都度話し合い確認をしている。玄関は基本施錠を行っていませんが緊急時【一時的】のときは、鍵をかけている。	職員は研修等で身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的苦痛について理解を深めており、身体拘束に該当する行為等の共通認識を図り抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。玄関は緊急時や夜間を除き施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活において利用者への言葉の遣い等に注意を払い、虐待がないように会議等で周知し防止に努めております。また、研修会への参加を進めております。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は理解しております。また、必要時にご家族様へ提案しつつ内外学習に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要説明書の説明を行い、内容については、ご理解をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会、意見や要望の話す機会を設け、対応している。また、アンケートを実施し、運営に反映するよう取り組んでおります。	家族からの意見や要望等はホームにとって大切な宝と受けとめて、行事を兼ねて家族同士の交流を深め、意見等をサービスに反映させている。利用時にホームの苦情受付担当者や外部の苦情受付機関等の説明もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者との年数回の話し合いの中でホームでの実践する内容や目標を掲げ意見交換の場を設け、より良い環境づくりに取り組んでおります。	職員自ら気付いた点を連絡ノート等に記入している。管理者は、サービスの質の確保には利用者や職員の馴染みの関係づくりが重要であると考え、日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や職員のやりがいを持つような規定で取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での全体会議の研修やチューター研修等(各ユニット1名のチューターを配置)、に取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症高齢者グループホーム協会に入会し情報の共有や研修等に参加している。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の表情や行動を見極め、会話や外出の機会を増し不安状況を出来るだけ抱えない環境づくりに取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階よりご家族様の傾聴し入居後も電話や面会時に要望・意見交換しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の状態に合わせたサービスの支援を視野に入れ、ケアマネージャーや施設職員に相談や連携が図れるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の態度や行動を理解し、その方に合ったケアをし同じ目線での対応をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご利用者の状況を文章で報告しております。また、普段の生活状況を見て頂いたり、面会時には、日々の生活状況をお伝えし、共有して頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来所された時には、ご自分のお部屋で過ごして頂いております。馴染みの場所は、本人や家族の協力を得て実施できるよう努めております。	利用者がこれまで培ってきた人間関係や社会との繋がりを家族等から確認し、家族の協力において関係の継続が出来るよう支援している。馴染みの場所へ職員と出掛けたり、知人の訪問時には居室に招いたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が話が合う方を同じテーブルにしたり一緒に行ったり関わりがもてるよう支援しています。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設関係者の方に生活の状況説明し、時には施設に利用者として伺っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人ひとりの生活状況にあったケアが出来るよう、職員間での情報の収集やカンファレンスで共有しプランに反映しています。	日々の関わりの中で声掛けを行い、言葉や表情等から真意を推し測り、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合には、家族等から情報も得ながらカンファレンスで共有し、本人本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族様からの情報収集しています。ケアマネジャーからも情報収集しております。入居後もご家族様と情報を共有しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用様の個々の一日の状況を記録に残しております。また、毎日バイタル測定体調管理に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族からの要望や希望伺い、ケアマネジャーと職員全員で課題等を話し合いご利用者様お一人おひとりに合ったケアプランを作成しております。	本人及び家族のニーズを踏まえ職員全員で課題等を話し合い、アセスメントやモニタリングを行っている。6か月毎の見直しと、状態の変化時には随時見直しをし介護計画を作成している。家族等にも報告をして了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の個々の日々の記録等から、職員間での話し合い、ケアに活し介護計画の見直し実践しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの要望があれば、出来るだけ沿えるよう配慮させて頂いております。また、ご家族様からの相談、おむつ券の支援、通院支援、訪問歯科、介護保険の更新の手続き等を行っております。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、地域消防の方の協力を頂き、避難訓練を実施しており、一人外出をされる方のご家族様より了承を得て、駐在所への情報提供を行っております。ご近所の方へ配れるよう写真の保管をしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用様一人一人かかりつけ医を決めており、基本ご家族様対応としていますが、場合によっては職員が対応しております。また、ご家族様の希望、確認により往診、訪問看護により事業所との関係を築いております。	本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。希望があれば協力医の往診も受けられるようにしている。歯科、眼科等の受診については職員対応もあり、利用者の状態や受診結果、服薬に関する情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様のケアの中での気づき等を早期発見に努め、変化あった場合は、ドクター及び訪問看護に情報を伝え相談し連携しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関において病院関係者と話し合いの中で、早期退院できるよう情報交換を行っています。入退院時にご家族様への不安がないよう配慮し医療関係者と連携に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族様に医療方針説明し、ご家族様から希望を伺っております。また、重度化や終末期の場合は、ご本人、ご家族様意向確認しながら、主治医、訪問看護と連携し施設で出来ることを行っております。	入居時に医療方針等を説明し、同意書や重度化に伴う意思確認書等の共有を図っている。医師の協力のもと、ターミナルケアを行っている。職員は2年に一度救急救命講習に参加し、要望に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、2年に一度は救急救命講習全職員に参加することにしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を行っており、自治会の参加することにより地域の皆様にご理解いただいての協力体制を確保しております。	年3回避難訓練を実施しており、通報、消火、避難誘導の手順を確認している。また、地域住民の協力体制も確保されている。備蓄等も整備されている。	災害はいつ、どの時間帯に起きるかわからないことから、昼夜を問わず様々な時間帯を想定した避難誘導ができるよう努めることに期待したい。また、職員連絡網に地域自治会長名簿も組み入れる等、さらなる協力体制の整備に期待したい。

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの尊厳やプライバシーの確保を十分理解し全職員対応しております。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳や権利を保障し、人格を尊重する事を対人援助の基本原則として心得ており、目立たずさりげない言葉かけや自己決定しやすい言葉かけに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を決められるよに支援しております。また、訴えの困難なご利用者様の表情言動を察知し、対応できるよう支援を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様お一人おひとりのリズムやペースを第一に考えて支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に添い、いままで使用していた愛着の物を使用できるようしています。また、馴染みの理容室や訪問美容の方に来ていただき、ご本人の希望を出来るだけ取り入れ支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員との会話の中で、食べたいもの(外食も含め)を言っていただき提供できるよう支援しております。中庭での収穫時期には、ご利用者様と一緒に収穫を楽しむ食材として提供しております。また、準備や方付けが出来るご利用者様には手伝っていただいております。	献立はその日の担当職員が作成し、利用者の嗜好に配慮しながら調理している。月1回少人数で外食をしたり、収穫時期にはホーム中庭で食事したり、旬の物を楽しんだりしている。職員も一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食のバランスを考え、主治医との連携を図り、ご利用者様お一人おひとりの状態を把握し、水分量の確認をし対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状況に応じ、毎食後の口腔ケアを実施し、週に2回は、訪問歯科にてお一人おひとりの口腔ケアを行っております。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁が見られる様になった利用者様には、トイレの声掛けをしている。排泄介助の必要なご利用者様にはその方に合わせた排泄の工夫でなるべくトイレで排泄が出来るようスタッフは努力しております。	利用者の排泄パターンを把握し生活リズムに沿った声掛けや誘導を行いトイレでの排泄支援をしている。自然排便を促す運動等、主治医、訪問看護師と連携しながら対応している。排泄失敗時には本人のプライドや羞恥心に配慮し、人目に触れないようさりげない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ラジオ体操や起床時の水分補給を行い予防努めております。また、主治医と訪問看護師と相談をし、自然排便が出来るよう取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調管理した上で、出来るだけ気分や希望に応じ入浴剤を使用し入浴を楽しんで頂いております。	入浴は午後2時から、1日おきに入浴できるよう支援しているが、希望者には毎日や夜間でも入浴できるよう対応している。入浴を拒否する利用者には時間を見計らい声掛けをしたり、同姓介助を希望する場合には同姓職員が対応している。入浴剤等も使用して楽しんで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様お一人おひとりの生活リズムや体調に合わせて休養が取れるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い、服薬の管理を行っており、服薬台帳には薬の効能等を記入し職員が理解しやすいようにしています。また、服用後ご利用者に変化ないか観察し異常時は、主治医や訪問看護師に報告し対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴を参考に、楽しみや役割を持ち季節感のある行事を立て外出しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出られるよう散歩や近場のドライブ、買い物に行ったりしております。また企画し、一泊旅行などにご家族様にも参加し協力して頂けるよう支援しております。	散歩、ドライブ、買い物等の他、季節の行事等を立てて外出している。家族等と少人数で1泊旅行を実施するなど、利用者の意欲や自立を保てるよう支援している。	

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、ご家族と相談した上で自分で管理出来る範囲で行って頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者より希望があった時に、施設の電話を使用しご本人の出来る範囲で行い、他は職員が支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にソファを用意したり、季節感はスタッフの工夫で飾りものを行ったり、玄関にお花の鉢置いたりしております。	共有空間は季節感を活かした飾りものや、利用者の作品等が展示されている。また、ソファが用意されゆったりと寛ぐ利用者もいる。清掃が行き届き、温度や湿度、換気も適切に管理され、快適な住空間が提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者によって好きな場所のソファで新聞を読んだり、気の合ったご利用者同士で同じテーブルで談話したい時には配置を変えたりし支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分に合った使い慣れた馴染みの物や、ご家族様に伺い好みの物を活かした生活空間を提供しております。	居室は日当たりが良く、ベット・筆筒・机等が準備されているが、家族の協力により、馴染みの物が持ち込まれ、安心して寛げる空間となっている。畳部屋も確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に、ご利用者に合わせ表札をつけたり、安全な環境で生活の支援できるよう工夫しております。		